

# 3 常任委員会合同視察研修報告

## ( 秩父市文化交流事業併催 )

昨年の12月3・4日に実施した市議会3常任委員会合同視察研修の概要について、報告いたします。

今年の11月には「山あげ行事」が山・鉾・屋台ほこの分野でユネスコ無形文化遺産に登録される予定ですが、同じく同遺産に登録される埼玉県秩父市の「秩父夜祭」と、本市が進めるジオパーク構想の先進地でもある秩父市のジオサイトや埼玉県立自然博物館等の視察研修を行いました。

秩父夜祭は、京都祇園祭・飛騨高山祭と共に日本三大曳山祭ひきやまりの一つに数えられ、三百数十年の歴史があります。秩父神社からお旅所たびしょといわれる大祭本部までの市街地には露店が連なり、そこを歩き交う人々が重なり合って歩くさまを目の当たりにして、約30万人の人出といわれる祭りの熱気と活力を実感しました。

祭りの由来は、秩父神社まつに祀られている妙見菩薩(女)と武甲山に住む龍神(男)が年に一度、12月3日にお旅所にある「亀の子石」で落ち合うというもの。亀は大地、龍は天を表わし、即ち天地合流というスケールの大きいロマンスが伝えられる祭りです。

お旅所には約3千余の棧敷席さじきが設けられ、団子坂を上り観衆の前に集結する6基の豪華な笠鉾・屋台かさほこと、冬の夜空に次々と打ち上げられる花火の迫力には感動を覚えました。

今回の秩父夜祭とジオサイトの視察研修は、本市の山あげ祭やジオパーク構想において、人々が魅了して止まない感動分岐点をどのように創出するか、そのヒントが得られたと感じる大変有意義な研修でした。

総務企画常任委員長

視察団長 久保居光一郎



冬の夜空を彩る花火



豪華な笠鉾・屋台を桟敷席から観賞



ジオサイト「取方の大露頭」の見学風景